

ご挨拶

「みやぎ地域防災のアイデア集 ～持続可能な防災まちづくりのために～」出版にあたり一言ご挨拶申し上げます。2021年3月で10年を迎える東日本大震災を始め、近年多くの豪雨・豪雪など自然災害が発生しています。地震や津波の活動の活発化に加えて地球規模気候変動の影響もあり、さらに新型コロナウイルス感染拡大など新たなリスクが重なる状況下で、地域での安全と安心を守ることが最重要課題の1つとなっています。

その中、宮城県内における18のモデル地区の支援に関わる中で得られた成果をまとめました。これらの内容は、「仙台防災枠組2015-2030」の4優先行動に対応して整理されており、体制づくりから始まり、災害対応サイクル(事前・事中・復旧・復興)の段階ごとに具体的な取組を紹介しています。

事前において重要となる次の災害への備えにあたり、啓発、人材育成、活動の継続・レベルアップ等に関する具体的な事例は、各地域での自主防災活動に参考となる内容であり、今後の積極的なご活用を期待します。

東北大学災害科学国際研究所
所長 今村 文彦

「みやぎ地域防災のアイデア集」の特徴と使い方

この「みやぎ地域防災のアイデア集 ～持続可能な防災まちづくりのために～」は、宮城県自主防災組織育成・活性化支援モデル事業(平成29年度から令和2年度)において、災害科学国際研究所の教職員がアドバイザーとして全18のモデル地区の支援に関わる中で得られた様々な成果を取りまとめたものです。

まずは、自主防災活動を11の大きなテーマに分類した上で、「一般的な進め方」と「参考事例」とがセットになった状態で各活動を整理しています。「参考事例」はモデル地区での具体的な実践について、「進め方とポイント」で活動の要点を理解し、「この取組のポイントや『なぜ、できたのか』」を読むことで、活動の秘訣も理解できるようになっているところが特徴です。

また、「参考事例」の活動内容や難易度が多種多様であるとともに数も豊富なことから、多くの自主防災組織にとって取り組みやすい活動や優先度の高い活動を見つけ出すことができると思います。なお、自主防災活動は、無理なく計画的に進めることも肝要です。

このアイデア集が持続可能な防災まちづくりのために広く活用されることを祈念します。

東北大学災害科学国際研究所
情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野
教授 佐藤 健